

## 『放課後等デイサービス自己点検及び評価シート』

作成日： 2023年5月18日

事業所名： 放課後等デイサービスこひつじ

		現在の取組内容・今後の改善目標（内容）
1 環境・ 体制整備	①支援内容にあった指導訓練室・相談スペース等の確保	室内のコーナー分けを工夫し、遊ぶ場所と学習する場所など、わかりやすく分けしている。また、お互いの遊びが守られるよう、遊び方に応じたコーナーを作っている。相談スペースを整理整頓したが、使い方には課題が残る。
	②職員の専門性・配置数 あい・さかいサポートリーダーの配置の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者兼児童発達支援管理責任者1名、保育士3名。</li> <li>・児童指導員2名、・その他の従業者4名</li> <li>・あい・さかいサポートリーダーは、まだ配置できていないが、2023年度より研修に参加し、配置できるようにする予定。</li> </ul>
	③送迎体制・添乗員の確保	送迎車は、軽自動車2台と普通車2台を備えている。運転手は5名登録している。原則として、添乗員を1名つけて送迎を行っているが、利用人数の増加に伴い、添乗員をつけることのできる人員確保が課題。
	④合理的配慮の視点に基づく環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用契約書、重要事項説明書にルビを付している。</li> <li>・エレベーター、手すり付きスロープ、車椅子でも使用可能なトイレを設置しており、車椅子利用の児童も受け入れられる環境である。</li> <li>・個々に応じたコミュニケーション・ツール（生活場面の絵カード、時計の見本、写真など）を作り、言葉や数字が苦手な子も安心して見通しが持てるような環境を引き続き作っている。</li> <li>・トイレが1カ所しかないため、排泄、着替え、手洗いがそれぞれ必要な場合に、待つ時間が生じている。</li> </ul>
	⑤職員の健康診断の実施	常勤職員と週20時間以上の非常勤職員については、年1回の健康診断を実施している。昨年まで週20時間未満の非常勤職員については任意で受診してもらっていたが、2023年度より全職員の健康診断を実施する予定。
2 業務改善	①アンケート等による利用児・保護者のニーズの把握とフィードバック	個別支援計画書の見直しの時期に保護者にニーズや支援内容について聞き取りを行い、計画書に反映し、個々の支援にも活かしている。保護者がニーズや支援内容に関して同じ内容で継続を求めるケースもあり、利用児本人の新たなニーズについて支援者側からも提案していく作業がさらに必要である。また、本人の思いが充分にくみ取れているかも課題。

	<p>②職員の支援技術の向上・虐待防止等の研修 (障害児通所支援事業者育成事業利用の有無)</p>	<p>全体研修を年に1回、虐待防止や子どもの人権をテーマとする研修を年に1回行っている。子どもの人権委員会を設置し2ヶ月に1度、研修を行い、虐待の芽にいち早く気づけるように取り組んでいる。昨年度は、キリスト教主義の障害児施設、止揚学園を任意の職員で見学した。今年度は、育成事業も利用していく予定。課題としては、さらなる外部の研修への積極的な参加と職員間での伝達共有がある。</p>
	<p>③虐待防止等のための責任者を設置</p>	<p>虐待防止等のための責任者を設置している(管理者)。</p>
	<p>④利用児、保護者からの苦情や意見への対応及び事業運営への反映</p>	<p>保護者から意見や相談があった場合は、児発管が対応し、相談内容を丁寧に聞き取るようにしている。支援内容に関する相談の場合は、日々の支援に反映できるようにし、それ以外の相談(急な利用希望等)については、職員間で話し合いをし、その日の利用児数と受け入れ体制を確認した上で対応できるようにしている。</p>
<p>3 適切な支援の提供</p>	<p>①児童発達支援管理責任者による放課後等デイサービス計画の作成(アセスメント・利用児及び保護者の意向確認・計画案の作成・会議開催・計画の保護者への説明及び交付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用契約時に、本人及び家族のニーズについて聞き取りを行い、支援内容や目標に関して確認をし、個別支援計画に反映している。</li> <li>・本人のニーズと思われる所を家族にも丁寧に伝えながら、支援のあり方について一緒に検討していけるよう努めている。</li> <li>・個別のスマールステップ表を活用し、日々の支援で大事なポイントを全職員が把握できるようにしている。その内容に関する話し合いが十分できるような体制(主に時間の確保)が課題である。</li> </ul>
	<p>②モニタリングの実施、計画の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングは、個々の利用児に合わせて3～6か月に1度行うようにしている。</li> <li>・個別支援計画の見直し検討は、モニタリング時期に合わせて行い、支援、取り組みの経過や結果を確認し、次期の個別支援計画に活かせるようにしている。</li> </ul>
	<p>③個別の課題に対応した活動内容・プログラム</p>	<p>個々の利用児の興味関心があることをベースに、その子に合った課題の提供をしている。指先を使った遊びや、簡単な言葉遊びを通して言葉のやりとりを楽しめるような遊びを意識して課題に取り入れている。戸外での散策や体を使った活動も提供している。課題として、思春期を迎える利用児への支援、対応があげられる。</p>
	<p>④ミーティング等の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援開始前にブリーフィングを行い、前日までの様子や引継ぎ事項を伝え、その他の情報交換を行っている。</li> <li>・メールやSMSを活用した情報共有も行き、支援につ</li> </ul>

		<p>いて早いタイミングで全職員に伝わるように努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回、ミーティングを行い、利用児の様子を共有し支援の検討を行っている。また、今後の予定等について情報を共有している。</li> <li>・1日の支援後には振り返りの時間を持ち、その日の利用児の様子や職員の動きに関する反省など行っている。</li> </ul>
	<p>⑤支援内容の記録</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日の様子を連絡帳に記入し、併せて送迎時にご家族に口頭でも伝えている。</li> <li>・業務日誌や運行日誌等も日々記録している。</li> <li>・業務日誌では、その日の利用児の様子や支援内容について記録している。個別の記録に関しては、スモールステップ表と合わせて、支援の目標を確認しながら、担当者が毎日記録している。</li> <li>・月に1回個別の様子や支援について、ミーティングで話し合われた内容を記録している。</li> </ul>
<p>4 関係機関との連携</p>	<p>①サービス担当者会議への参加（障害児相談支援事業所との連携）</p>	<p>保護者や相談支援事業所担当者からの提案で行われるサービス担当者会議に参加している。相談支援事業所からのモニタリングにも引き続き応じている（電話、訪問）。また、相談支援事業所と個別支援計画の内容について情報を共有し、連携を取っている。</p>
	<p>②学校との連携</p>	<p>学校への送迎時、担任の先生より学校での様子を聞き取りし、デイで過ごしている様子なども伝えるようにしている。学校の要請にしたがって、カンファレンスなどにも参加している。</p>
	<p>③他の放課後等デイサービス事業所、障害福祉サービス事業所等との連携</p>	<p>さかい障がい児放課後連絡会に所属し、事業所同士の連携を図っている。それぞれの事業との等ディサービス他の事業所も併用している利用児についての支援や情報をお互いに共有し、連携をはかっている。特に、支援について共通理解が必要なケースについては、密に連携をとるようにしている。併用している事業所が多い（3つ以上）児に関しては、全ての事業所との連携は難しいが、相談支援事業所が情報を提供してくれている。</p>
	<p>④（特に医療的ケアを必要とする利用児について）主治医や協力医療機関等との連携・連絡体制</p>	<p>現時点で医療的ケアを必要とする児が利用していないため、特に主治医等との連携はしていない。</p>

	<p>⑤学校を卒業する際の就労移行支援（引継ぎ等）、就学前施設との連携（情報共有・引継ぎ等）</p>	<p>今年度に、就労移行支援に該当する利用児がいるので、課題目標等の情報を引継ぎできるようにしていきたい。新1年生の利用児に関しては、就学前施設との連携が困難であり、もっぱら保護者からの情報提供になっていることが課題である。</p>
	<p>⑥「あい・ふあいる」の活用</p>	<p>現時点では活用までに至っていない。「あい・ふあいる」の認知度がまだ保護者の中でも低く、「あい・ふあいる」に関する説明も行っていく必要がある。職員間でも「あい・ふあいる」を活用する意味を十分に共有できておらず、今後研修を通して共有をはかる。</p>
<p>5 保護者への説明責任等</p>	<p>①事業所で実施している支援（支援内容、プログラムなどを記載してください。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児が、自分らしくいられることを基本的な支援方針としている。</li> <li>・毎月、子どもたちが製作や造形した作品で、室内環境を整えている。</li> <li>・誕生会では、歌や簡単な楽器を演奏し、一人ひとりの子どもをお祝いする。</li> <li>・月に1回の土曜日のクッキングの他、長期休暇にもおやつ作りなどのクッキングを行っている。</li> <li>・土曜日や長期休暇には、お出かけを企画している。</li> </ul>
	<p>②運営規程、支援内容、利用者負担の説明</p>	<p>・契約時に、重要事項説明、サービスの内容、具体的な支援方法、利用者実費負担等について説明している。</p>
	<p>③保護者からの相談への適切な対応、必要な助言</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅への送迎時や電話で、保護者からの意見や相談を聞き取り、ミーティングなどで話し合い、対応策を検討し実施している。</li> <li>・保護者より具体的な相談があった場合は、時間と場所を提供して、丁寧な聞き取りを行い、子どもの支援につなげたり、保護者の不安を軽減できるよう、具体的な支援方法について提案や助言を行っている。</li> <li>・保護者支援が必要なケースが年々増えており、様々なケースに対応できるよう、職員のレベルアップが課題である。研修のテーマに取り上げたり、事業所外での研修に積極的に参加するなどして、より専門性を高めていきたい。</li> <li>・個別の具体的な問題については、堺市や放課後連絡会、地域基幹センターなどにしていきたい。</li> </ul>
	<p>④会報の発行等による活動内容や行事予定等の定期的な発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月おたよりの発行や、年に4～5回の会報などを通して、活動の内容や予定等についてお知らせしている。</li> <li>・SNSやホームページなどで、保護者や利用児にわかりやすく情報を提供していくことが、今後の課題である。</li> </ul>

	⑤日々の支援内容、利用児の様子、おやつ等の保護者への報告	・その日の様子や、取り組み内容、食事（おやつ含む）や排泄の有無などを連絡帳に記載し、帰宅時にも口頭で連絡事項を丁寧に伝えている。連絡帳を利用しない家庭には、口頭やメモ、メール等で報告内容に漏れがないように努めている。
	⑥おやつ代等実費徴収している費用に係る領収書の発行、精算報告	おやつ代等は徴収しておらず、無料で提供している。
	⑦身体拘束を行う場合の決定手順、利用児・保護者への説明、計画への記載	・食事やおやつの際の補助椅子の使用などは、保護者の了解を得て行っている。 ・現時点では、パニックや自傷・他傷行為等がある利用児はいないが、そのような場合は、家族と相談し、家族の同意の上、個別支援計画にも記載するようにする。
	⑧個人情報の適切な取扱い	・重要事項説明書に、秘密保持と個人情報の保護について説明している。 ・就業規則に、個人情報取扱いの規定を設けている。
6 非常時の対応	①緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等の整備と職員、保護者への周知	各種危機管理マニュアルを備えており、全職員で内容を共有している。不審者対応についても、職員間で確認をしている。送迎の回数も増えているので、送迎時の事故対応についてはこまめに担当職員と確認できるようにしている。
	②非常災害の計画策定、避難・救出・その他必要な訓練の実施	・毎月1回、同じ施設内のこども園と合同の避難訓練を行っている。下校時間が遅い利用児に関しては、この合同の訓練に参加が難しいことが課題である。
	③ヒヤリハット、事故の事案を収集し再発防止等について事業所内において共有	事故時のフローチャートを全職員で再確認している。ヒヤリハット報告は、その都度、またミーティングなどで確認しているが、書面として残しているのは少なく感じている。些細なことでも危険防止につながる視点を共有していくことが、今後の課題である。
	④サービス提供中の事故を防ぐための取組等	毎日のブリーフィングや振り返りの中で、ヒヤリハット事項の報告を行うとともに、月に1回ヒヤリハット・ドライバーズ会議を行っている。
	⑤感染症対策の実施	コロナ感染対策として、職員と利用児の、毎日の検温と手指消毒、玩具消毒、マスクの着用などの対策を行ってきた。また、堺市のコロナ集中検査事業に参加して職員の週1回のPCR検査も行ってきた。 今後は、5類に移行することを踏まえて、感染状況を見ながら、対応を考えていく。

7 その他	①地域との交流	<p>昨年度は、戸外でのこども園の行事の「あそBOフェスタ（運動会のような行事）」に参加（見学）をする機会をもつことができた。</p> <p>近隣の公園や商業施設、図書館などの公共施設に出かけて、地域の子どもや人が一緒にいる場で利用する機会は定期的に作っている。今後、コロナ感染症が収まっていく中で、安全に地域の人たちとの交流を楽しめる工夫をしていきたい。</p>
----------	---------	--